

No.	チーム	テーマ	目的と現状	提案を受け実行すると判断された 最終改善計画	実行担当課	実 施 状 況
1	新たな挑戦への道	山岳救助における課題を越えて	【目的】 冬期間天候不良の中救助活動を行った山岳事案について検討会を行った結果、救助活動を行う上での課題が挙げられた。 このことから、短期プランと長期プランに分けて山岳事故対応に向けた組織内の改革を含めた業務の整理を行うことを目的とする。 【現状】 インバウンドの増加や高齢者の登山者増加などにより、山岳事故が増加傾向にあること、また、多様化する山岳救助事案への対応や季節を選ばない山岳救助事案等、求められることか多岐にわたっているなか、山岳に関する救助体制が不十分かつ専門ではない資器材で対応している。 【主な課題】 ・個人装備、資器材が通常災害と同様で、山岳地に適さない仕様となっている。 ・専門知識が必要とする山岳救助において、専門性に特化する人材育成が不十分。 ・救助隊が行っている業務は専門性が高く、求められるものが多岐にわたっており負担が大きい。	1 専門資器材の配備 2 協力体制の構築 3 救助隊の任務整理及び教育体制の構築 4 山岳救助隊（消防隊兼務）の発隊	警防課 消防署 総務課	1 専門資器材の整備 (1) 実施状況 ア 包括連携協定を活用し株式会社モンベルより資器材提供（雨衣（上・下）及び山岳ヘルメットを各24セット）を受ける予定。 イ 令和6年度予算による資器材の配備を行うため現在購入手続きを進行中。 (2) 成果 専門資器材が配備されることとなり、軽量化や個人装備品の機能強化により活動性及び安全性が向上する。 2 協力体制の構築 (1) 実施状況 【R6.11月～12月】 山岳救助事案で協力していただいている「蔵王観光開発株式会社」「蔵王ロープウェイ株式会社」へ、今後の協力体制について打ち合わせを実施。 【R6.12月】 蔵王スキーパトロール事務局の観光戦略課、山岳遭難対策委員会事務局の防災対策課と打ち合わせを行い、山形市として協力体制について協議した。 (2) 成果 各部局の役割について再度確認し整理をおこなった。消防本部は救助活動を主な役割とするため、消防活動支援における協定締結に向け準備を進めている。 3 救助隊の任務整理及び教育体制の構築 (1) 実施状況 東京消防庁で開催される短期受託研修に職員1名を派遣。青梅消防署山岳救助隊で山岳救助活動技術に関する研修を受講した。 (2) 成果 消防機関の山岳救助隊の中でも、充実した装備、技術並びに豊富な災害経験を有する組織であること、また山形市と山岳環境が酷似している状況下にある東京消防庁山岳救助隊の研修を受講し、知識及び技術習得を図ることができた。 今後、活動技術の習熟と職員への周知・浸透を図るべく教育体制の確立と、救助隊の任務整理に向けて検討を図る。 4 山岳救助隊（消防隊兼務）の発隊 蔵王温泉出張所開所時に、運用開始となるよう資器材導入を前倒して検討中。 5 その他（活動事例 救助第14号） (1) 事故概要 日時：令和7年2月10日（月）15時19分入電 15時52分指令 場所：山形市上宝沢地内 地藏山頂駅 南東約150m（蔵王山） 概要：60歳男性1名が熊野岳から蔵王山頂駅まで移動中、5～10m滑落し身動きが取れなくなったため救助要請となったもの (2) 奏功事例 ア 登山アプリ「YAMAP」の活用 入山隊員の位置情報を現場指揮本部及び指令センターで共有し、的確な活動管理を実施 ※ 令和6年8月に「YAMAP」のグループ共有の運用を開始した イ 蔵王ロープウェイ株式会社の協力 災害現場への移動手段として、蔵王ロープウェイ株式会社より協力いただき迅速な救助活動を実施 ※ 令和6年11月に山岳救助事案発生時における協力体制について打ち合わせを実施済み (3) 課題 今回は警察機関の支援を受け山岳ガイドの同行により、安全に救助活動を行うことができたが、山岳における救助活動を安全に行うには、山岳ガイドの派遣同行がスムーズに行える体制づくりが必要であることを痛感した。